

農業法人の成長を財務基盤から支える —アグリビジネス投資育成(株)の出資が500件を突破—

特集2に登場する「おこめん工房」の成長を支えた「担い手経営体応援ファンド」。このファンドを運営しているのがアグリビジネス投資育成(株)です。農業法人をはじめ、農畜産物の加工・流通や農作業の受託等を行う法人に出資を行い、財務基盤の安定化を通じて成長を支援してきました。2018年には、累計出資件数が500件を突破しました。

●アグリビジネス投資育成(株)とは

農業者の高齢化や、耕作放棄地の拡大が進む日本の農業。新たな担い手として農業法人の成長が求められています。一方、農業は天候の影響を受けやすく、投資の回収までの期間が長いため、農業法人の資金調達時には信用力が障壁となることがあります。この課題を解消するため、2002年に始まったのが農業法人投資育成制度^{*}です。

この制度では、農林水産大臣の承認のもと、民間金融機関と日本政策金融公庫が出資し、農業法人への投資主体を設立します。この投資主体の株式会社の第1号として、「アグリビジネス投資育成(株)」は設立されました。

^{*}農業法人投資育成制度は、「農業法人に対する投資の円滑化に関する特別措置法(平成14年法律第52号)」によって定められています。

会社概要

本社	東京都千代田区
代表執行役	森本 健太郎
資本金	40.7億円
株主	JAグループ:50.12% (うち農林中央金庫19.98%、全国農業協同組合連合会15.06%、全国共済農業協同組合連合会15.06%、全国農業協同組合中央会0.02%) 日本政策金融公庫:49.88%
業務内容	農業法人等に対する投資育成業

●農業法人への支援内容

アグリビジネス投資育成(株)は、財務基盤の安定化を目的として、農業法人や関連する法人に安定株主として出資してきました。出資には、出資先の信用力を強化することで、事業拡大のための融資を受けやすくする狙いがあります。

出資の形態としては、「自己勘定投資」と「自己信

託投資」があり、「自己信託投資」には、JAバンクアグリ・エコサポート基金(農林中央金庫が基金拠出)から運用を受託して投資を行う「アグリシードファンド」「復興ファンド」「担い手経営体応援ファンド」の3つのファンドがあります。

この他、アグリビジネス投資育成(株)では、相談を通じた出資先の経営支援も行っています。

農業法人投資育成制度による出資の仕組み

自己勘定投資

アグリビジネス投資育成(株)の資本金を活用し、2002年に自らの勘定による出資を開始。

(2018年度末) 累計出資件数: 136件
累計出資額: 42億円

自己信託投資

「アグリシードファンド」

技術力があっても資本が足りない、設立間もない農業法人等の育成のための出資の仕組み。

(2018年度末) 累計出資件数: 317件
累計出資額: 24億円

「復興ファンド(東北農林水産業応援ファンド)」
東日本大震災で被災した農林水産業者等の、経営再建のための出資の仕組み。

(2018年度末) 累計出資件数: 70件
累計出資額: 17億円

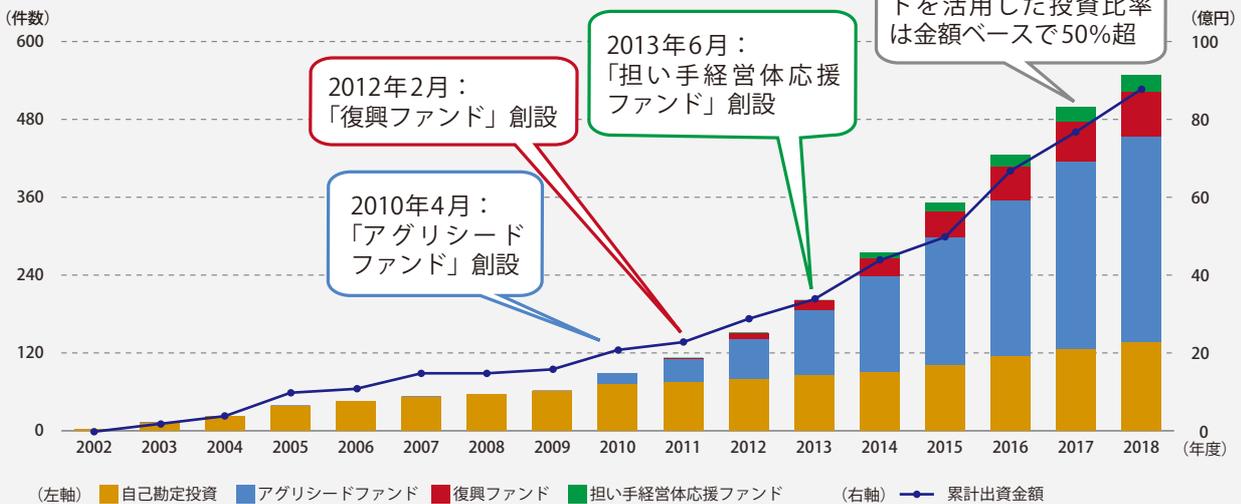
「担い手経営体応援ファンド」

耕作放棄地の利用・農地集積や、6次化を目指す農業法人の規模拡大ニーズに応えるための出資の仕組み。

(2018年度末) 累計出資件数: 25件
累計出資額: 7億円

● 出資実績

農業法人に対する累計出資件数・金額

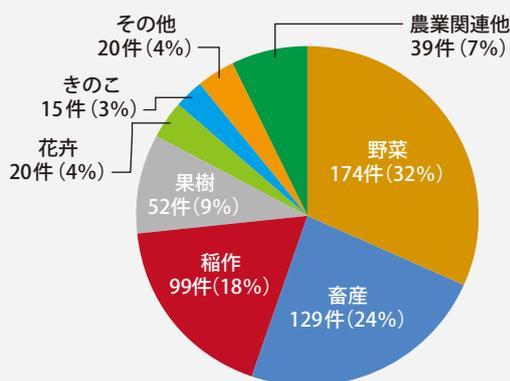


2018年度には、アグリビジネス投資育成(株)による累計の出資が548件、89億円となりました。

累計出資件数の内訳は、「自己勘定投資」が136件、「アグリシードファンド」が317件、「復興ファンド」が70件、「担い手経営体応援ファンド」が25件で、

「アグリシードファンド」の割合が高くなっています。「アグリシードファンド」の主な出資先は設立間もない農業法人で、アグリビジネス投資育成(株)は規模の大小にかかわらず幅広い経営体に出資しています。

業種別出資実績 (2018年度累計)



出資先の農業法人の業種は、野菜 (32%)、畜産 (24%)、稲作 (18%) をはじめとする幅広い品目にわたります。

※比率の計数は小数点第2位を四捨五入しているため、和が一致しないことがある。

出資先における最新売上高の状況と増加率

(単位:億円)

年度	集計件数	出資前売上高 (合計)	出資後最新売上高 (合計)	増加率 (出資前対比)
2010	16	70	150	214%
2011	23	65	136	210%
2012	35	87	117	134%
2013	53	83	128	154%
2014	67	104	149	143%
2015	75	120	172	143%
2016	74	301	325	108%
合計	343	833	1,181	142%

※2010年度の出資案件より集計しており、すでに取引が終了した案件は除く。なお2017年度の出資案件については、最新の売上高が集計未了であるため除外。計数は単位未満を切り捨てているため合計の和は一致しないことがある。

出資先の農業法人の売上高を出資前後で比較すると、平均で1億100万円増加しています(出資前対比142%)。上図の通り、出資から年数が経つにつれて、出資先の売上高は増加する傾向が見られます。

●出資事例

(株)早和果樹園(和歌山県有田市)

事業内容：みかんの生産とジュース等への加工

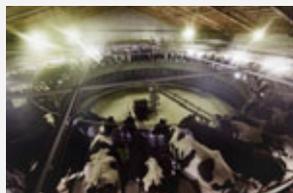
2003年にアグリビジネス投資育成から出資を受けて開始したジュースの製造が、業績向上に大きく寄与。出資時は20百万円だった売上が現在は900百万円を超え、従業員数も8名から56名(常勤パート含む)まで増えるなど、地域の雇用創出への貢献にも繋がっています。



(株)ノベルズ(北海道河東郡上士幌町)

事業内容：肉用牛飼育・酪農・食品製造

肉用牛部門を核とした「乳肉複合経営」のビジネスモデルを他地域に先んじて確立し、先進的・積極的な経営を行ってきた同社グループ。酪農の牧場を新設するにあたり、運転資金の調達と資本の増強を目的として、2018年にアグリビジネス投資育成の出資制度を活用しました。



(有)宮川洋蘭(熊本県宇城市)

事業内容：洋蘭の製造・販売

2014年にアグリビジネス投資育成からの出資を受け、財務基盤が安定化したことで、新商品のボトルフラワーの展開を加速。ボトルフラワーは、季節を問わず生産できるため、1年を通じた地域の雇用創出にも貢献しています。



(株)グリーンカウベル(広島県三次市)

事業内容：ほうれんそう生産等の野菜栽培

県内の気候の違う複数の農場で生産することで、通年出荷が可能な生産体制の確立を目指しています。将来の規模拡大を視野に、個人経営を法人化するにあたり、財務基盤拡充と運転資金確保を目的に、2018年にアグリビジネス投資育成からの出資を受けました。



その他の投資先企業紹介：<https://www.agri-invest.co.jp/record/02/>

JAとは

JAとは、相互扶助の精神のもとに農家の営農と生活を守り高め、よりよい社会を築くことを目的に組織された協同組合です。この目的のために、JAは営農や生活の指導をするほか、生産資材・生活資材の共同購入や農畜産物の共同販売、貯金の受け入れ、農業生産資金や生活資金の貸し付け、農業生産や生活に必要な共同利用施設の設置、あるいは万一の場合に備える共済等の事業や活動を行っています。

信連とは

JA系統信用事業の都道府県段階の連合会組織です。JAの事業運営をサポートする県域機能を発揮するとともに、地域金融機関としてJAと連携して金融サービスを提供することにより、JAと一体となって地域の皆さまに金融サービスを提供しています。

農林中央金庫とは

農業協同組合(JA)、漁業協同組合(JF)、森林組合(森組)等の出資による協同組織の全国金融機関です。協同組織のために金融の円滑化を図ることにより、農林水産業や国民経済の発展に貢献することを目的としています。

JAバンク

JA

信連

農林中金

JAバンクは全国に民間最大級の店舗網を展開しているJAバンク会員(JA・信連・農林中金)で構成するグループの名称です。

NEWS LETTERについての
お問い合わせは

農林中央金庫

〒100-8420 東京都千代田区有楽町1-13-2
総務部広報企画班
TEL:03-5222-2017